

はじめに

1. 教員として自由研究の指導をしながら



毎年、ほとんどの中学校においては、夏休み前に「理科の自由研究」の指導をします。そして、夏休み明けには、出来上がった作品を見て評価をつけることになります。その中でよい作品は、市の作品展に出品することになり、そこでまたよい作品は県・全国へ進みます。市の作品展に出品されるような作品は、時間と労力をかけて取り組んだ素晴らしい作品が多く、親御さんのアドバイスもあるのでしようが、本当によく考え、実験を繰り返し、まとめ方もきれいで説得力のある作品が多く出品されています。

このような自由研究の指導をしていく中で、よく子どもたちの「何を研究してよいか分からない」という切実な声にぶつかりました。「自由」にやれと言われて、本当に困った顔をします。日ごろ、教科書の内容にまじめに取り組み、一生懸命勉強している子でさえそうです。そんなとき過去の理科作品集を見せたり、「これをヒントにやってみたら」といってあげたりすると、ようやく取り組むということが多くありました。

2. インターネットの発達

そのような中、1995 年ころから、インターネットが発達してきて、我々一介の教師でも、情報を発信できる時代がやってきました。はじめは学校ホームページや市の教員の理科研究部のホームページの作成を手がけていましたが、そのうちに、個人のページを作成しました。それが、この本作成につながる「理科の自由研究室」ホームページのスタートでした。そして、先ほどの経験から内容（コンテンツ）は「理科の自由研究で子供たちに役に立つページ」に絞り込んでいきました。

はじめから、アクセス数はすごいものがありました。毎日カウンターがころころ回るのが分かり、「これはよかった、私のページが少しでも役に立っているのならうれしい。」と思いました。

3. 掲示板の運営

そして、1999年に掲示板を設けました。純粋に子供たちの質問を受け付けるためのものですが、この運営にはいろいろな出来事がありました。毎年の夏休みに訪れる子供たちも変化しますので、いろいろなパターンがあって、ある年は相当数の「荒らし」に困ったこともあり、「スパム」という、今でこそ対処方法が定着しましたが、勝手に送りつけてくる不届きな書き込みやメールとの戦いもありました。いや、今でもそれは続いています。匿名で何でも書き込めることの弊害は、インターネットの闇の部分です。しかし、プロバイダーや、掲示板を置いているサーバー会社の努力もあって、ずいぶん少なくなってきました。これは今後も対策を講じていく必要がある部分です。

4. 掲示板で集まる「理科好きの同士」たち

掲示板は、ある種の雰囲気を持った部屋のようなところがあります。書き込む人たちの心がけひとつで「まじめな雰囲気」にもなるし、それこそ荒れてしまうこともある。この部屋は「まじめな部屋だ」と常に言い続け、そのルール作りにも苦心しました。あるいは、不届き者の「アクセスの禁止」など技術的な戦術の向上もありました。これは、掲示板を置いている側（ページの管理人や、サーバー会社を含めて）の責任だと思っています。

さて毎年、掲示板に書き込みが続いていく中で、まじめに質問する方、親切に答えてくださる方が増えてきました。1年だけの方もいらっしゃるし、一回きりの通りすがりの方もいらっしゃいます。答えを書き込まれる方々も自分の専門分野の質問には自信を持って



うまなりさん



暁さん

おられて、小・中・高校生にはとても的確なコメントが返ってきます。そのようなつながりから、今回の本作りのメンバーであるまんぼうさんや暁さん、うまなりさんと知り合いました。暁さんは、今は中学の理科の教員ですが、中学生のころに質問で訪れ、高校生になってから答える側で参加しておられます。最近では、小・中学生同士でお互いに質問してアドバイスするという、まじめな双方向の書き込みもあり、たいへんうれしく思っています。

5. 進化するホームページ

さて、こうしたホームページや掲示板での取り組みは、小さいながらも「世の中の役に立っている」という喜びがありました。何とか子どもたちが理科の自由研究をするときの助けになればという思いで、ページの更新、掲示板の書き込みを続けてきました。それが次々に、新しいページのコンテンツになって行きました。新たに「ミニ研究」や「Q & R」のページができていったのです。ホームページが訪れてくれる人々によってバージョンアップしていくというか、いっそうよいホームページへと進化してくのです。これが、双方向のインターネットの光の部分です。有意の多数の人々による共同製作です。今、この「理科の自由研究室」ホームページは、私だけのものではなくなっています。

6. 本作りへ

そのような状況のとき、2007年に理工図書さんから「ホームページを本にしてみないか」とのお誘いを受けました。はじめは、うれしい反面、自由研究の本ならいくらでも出ているし、「売れるわけではない」との思いから迷っていました。しかし、暁さんやまんぼうさんが即座に「売るためでなくこのホームページの内容が『本』になることに意義がある。」と諭してくれました。そのお言葉が私を突き動かしました。そうです。私もホームページを作ったときから利

益を得ることなど念頭にありませんでした。(いえ、少しは利益が出ればいいなあとは正直思いましたが・・・) それよりも、「役に立つ喜び」があるからこそ、でした。

今、毎年お答えを書き込んでくださる、まんぼうさん、暁さん、うまなりさんがページの執筆・点検・構成を引き受けてくださることになりました。



それから、「N君」(わさびくん)も最近この本作りに協力してくれるようになりました。N君は、ホームページにも紹介してある「浮上回転地球儀」などの作者で、私の教え子です。中学時代には他にも「リニアモーターカー」などの自由研究作品を作って、3年連続で全国大会へ出品したことがあります。私自身が理科の教員でありながら、自由研究の面白さに目覚めたのも中学生の彼に出会ったおかげです。このホームページ作りのきっかけも彼の作品に触発された結果といっても言い過ぎではありません。2008年の夏から、本作りのメンバーに加わってくれています。

また、途中から表紙やカットを描いてくださる「にゃんこまつり」さんや、「おしんちゃん」さんも仲間に加わってくださいました。

このように、私個人の手を離れて成長した「理科の自由研究室」は、皆さんの共同製作・共著として本を出すことができる運びとなりました。この本が少しでも世の中の小・中・高校生のお役に立ち、少しでも「理科好きな子どもが増える」ことになれば、大変うれしいと思っています。

素人集団であり、本の作成にはなかなか手間取って時間がかかりましたが、ようやく完成までこぎつけたことをとてもうれしく思います。小・中学生が、今後ともこの本やホームページを利用して、よりよい自由研究に結び付けてくれたら幸いです。

7. この本の元になっているホームページ「理科の自由研究室」

<http://www.hi-net.zaq.ne.jp/t-nishi/>